

第 1 回 持続可能な街路樹の管理に関する検討委員会 議事概要

■検討委員会概要

日時：令和 5 年 1 月 1 6 日（月） 1 4 : 3 0 ~ 1 6 : 0 0

場所：日本工営株式会社 会議室

【委員】（敬称略）

久保田 尚（埼玉大学教授）

濱野 周泰（東京農業大学客員教授）

飯田 晶子（東京大学研究員）

松浦 正浩（明治大学専任教授）

松本 浩（国土技術政策総合研究所 社会資本マネジメント研究センター
緑化生態研究室長）

石井 宏明（国土交通省関東地方整備局 東京国道事務所 所長）

■議事概要

(1) 持続可能な街路樹の管理に関する検討委員会について

- 街路樹の課題や問題への対策についての合意形成を図るうえで、街路樹の状況に関する情報やデータを最新の情報発信手段等を活用し、住民等に分かりやすい形で公開、周知することが重要。
- 大径木化し、道路空間に見合わなくなった街路樹の対策として、街路樹を更新するだけでなく、街路樹に合わせて道路空間を変えることの可能性についても、交通量等の諸条件への影響を踏まえて検証することが必要。
- 街路樹の対策に関する合意形成を図るためには、これまでに問題となっている街路樹のマイナス面だけを取り上げるのではなく、街路樹が存在することによる便益（雨水浸透貯留や緑陰・景観向上機能、温暖化防止等）についても評価した上で総合的な観点から説明できるようにすることが重要。
- 街路樹の対策に関する合意形成を図るうえで、沿道住民を含め、対象とする範囲をどこまで設定するかが今後検討すべき重要な課題となる。
- はじめに、これからの持続可能な街路樹のあるべき姿や目標についての社会的な合意を得た後に、技術的な観点からの問題や課題に対する対策方

法・手段についての合意形成を図る必要がある。

- 長期的な観点からは、例えば道路や沿道の都市計画上の見直しを行って、沿道の民地の一部を緑地化(公開空地など)するなどにより、大径木化した街路樹の生息できる空間を確保することも検討が必要。
- 持続可能な街路樹の管理として、今後50年、100年にわたって発生する問題や課題を想定した、東京国道管内全ての管理路線における街路樹のトータルマネジメントを検討していくことが重要。

(2)今後の予定について

- 試行の検証区間とする国道20号のケヤキ区間について、現地視察を2月頃に実施する予定である。
- 今回の意見を踏まえ資料を修正し、次回の委員会にて御提示させていただく。次回は3月中の開催予定である。

以 上